

2022 年度

劇場実験型 リサーチ支援型 公募研究募集

京都芸術大学 舞台芸術研究センター「舞台芸術作品の創造・受容のための領域横断的・実践的研究拠点」では、舞台芸術作品の「創造」(＝ファクトリー機能)だけではなく、作品が生み出されていく「創造のプロセス」に焦点をあてた「実験」や「研究」(＝ラボラトリー機能)を 2013 年度より継続してきました。

本公募事業では、この「ラボラトリー機能」に関わる共同研究プロジェクトとして、創造と研究が横断的に結びついた舞台芸術の新たな可能性を探求する【劇場実験型】【リサーチ支援型】の研究プロジェクトを募集します。

研究テーマについては、研究代表者の自由な発想からなる【自由テーマ】、または「2020 年代の劇場」を課題とした【課題テーマ】による研究事業のいずれかとなります。なお、この共同研究プロジェクトでは、創造と研究の協働をふまえた、演劇・ダンス・伝統芸能・音楽・美術・映像・AR VR・教育などの幅広い分野にかかわるジャンル横断的な研究を推奨しています。

(I) 劇場実験型

京都芸術劇場(春秋座・studio21)を活用した「劇場実験」を研究プロセスの中心に据え、研究者とアーティスト・舞台技術者等の協働による研究チームによって行われる研究プロジェクトを指しています。創造と研究の連携を通じた実践的な研究を支援することで、新たな舞台芸術のヴィジョンを構想する先進的な研究を奨励します。

募集期間

2021 年 6 月 1 日(月)～8 月 29 日(日)

(II) リサーチ支援型

劇場実験や作品の創作、発表に至る前段階の「リサーチ」を中心とする研究プロジェクトを指しています。新しい発想からなる舞台芸術作品の創作に向けた文献調査やフィールドワーク、その他創作のための劇場実験を将来的に見据えた「リサーチ」を中心とした研究を奨励します。

募集期間

2021 年 8 月 2 日(月)～10 月 31 日(日)

創造と研究の連携を通じ
舞台芸術の新たなヴィジョン
を構想する

【Ⅰ】劇場実験型研究事業募集

▷ 公募内容

舞台芸術（演劇、ダンス、伝統芸能、ジャンル横断的パフォーマンス・アーツ等）に関連し、京都芸術劇場（春秋座・studio21等）を活用して行われる実践的研究。研究の視点としては、以下のいずれかに当てはまるものであることを原則とします。

- ・作品の創作に向けたアーティストと研究者による劇場実験
- ・研究者を中心とする劇場を利用した研究プロジェクト
- ・舞台技術者を中心とした劇場機構の可能性を探究する研究プロジェクト

▷ 応募資格

以下のいずれかにあてはまること。

- ・大学その他の研究機関に所属する研究者、アーティスト、舞台技術者
- ・舞台芸術の現場に関わるアーティスト・舞台技術者・舞台批評家・プロデューサー
- ・大学院（海外の大学院を含む）を修了し、博士の学位を得ているか、またはそれに準ずる研究業績を持っている者

※研究計画が複数年度にわたるプロジェクトの申請も可能ですが、採択は単年度毎とします。

▷ 研究チームの編成

以下の三項による研究チームを編成してください。

研究代表者＝研究の中心となり、研究の遂行に責任を持つ人を指します。

研究分担者＝共同研究者として、研究の遂行に責任を持つ人を指します。

研究協力者＝研究遂行に必要な研究者、アーティスト、舞台技術者等を指します。

▷ 研究対象期間

2022年4月1日～2023年3月31日

▷ 研究予算

1件につき年間100万円～250万円

▷ 採択件数

2件程度を予定

春秋座（大劇場）

台間口・奥行き

プロセニウム間口18m≒約10間（仮設大臣使用時8間）、
プロセニウム高さ約6m30cm（21尺）～約7m60cm（24尺）。
舞台奥行き約17m。スノコ高さ約16m。

主な附帯設備

廻り盆（直径45尺）、大セリ（6間×7尺）、小セリ（2間×4尺）2台。
仮設花道（スッポンセリ6尺×3尺を附設）、仮設鳥屋。
パトン63本は手引きのみ（積載300kg）。
照明・音響は各々調整室あるいは客席内仮設卓にて集中制御が可能。



studio21（小劇場）

空間

幅：約10m40cm（≒5間4尺余り） 奥行：約27m50cm（≒15間余り）
高：約5m45cm（≒3間）

主な附帯設備・機材

舞台（幕類、平台・馬足・箱馬、ダンス用リノリウムなど）、
音響（調整卓・アンプ、デッキ類、マイク・スピーカ類）、
照明（調整卓、ディマー、機材類）、他。
舞台袖・裏、専用楽屋はありません。



【Ⅱ】リサーチ支援型研究事業募集

▷ 公募内容

新しい発想からなる舞台芸術作品の創作に係る学術研究や実地調査、または創作のための劇場実験を将来的に見据えた研究を募集します。

▷ 応募資格

アーティスト（舞台技術・アートマネジメント等も含む）、研究者の別を問わず応募できます。

※アーティストには、映像分野や美術分野など、パフォーマンスアーツ以外のジャンルも含まれます。
※【リサーチ支援型】研究事業として同一の研究代表者により計画される複数年度にわたるプロジェクトの継続採択は原則行いません。

▷ 研究対象期間

2022年4月1日～2023年3月31日

▷ 研究予算

1件につき年間20万円～80万円

▷ 採択件数

2件程度を予定

▷ 研究チームの編成

個人またはチームによる申請、いずれも可能です。チームの編成に関する指定はありません。

京都芸術大学舞台芸術研究センター

〈舞台芸術の創造・受容のための領域横断的・実践的研究拠点〉

2022年度募集について

私たち、京都芸術大学「舞台芸術作品の創造・受容のための領域横断的・実践的研究拠点」では、2014年度から「劇場実験型」の研究公募を実施してきました。2019年度からは、「リサーチ支援型」の研究公募もあわせて開始することで、できるだけ多くの方に、本研究拠点のリソースを活用しながら、未来の舞台芸術作品の創造に、何らかの形でつながっていく創造的な研究・実験を実現していただけるための環境整備に取り組んでまいりました。

けれども、誰もが痛感しているように、2020年、突如発生したコロナ禍は、舞台芸術のあり方に根源的な問いを投げかけているように思われます。それに加えて、コロナ禍はまた、2010年代の世界全体が有していた諸問題を鋭くあぶり出し、いやおうなく私たちに「変化」を促してもいます。「2020年代」は、不透明化する国際秩序の動向や、ますます激化する自然災害や気候変動など、数多くの問題をかかえたまま、困難な船出を迎えています。

そうした状況に鑑みると、「未来の舞台芸術」の創造を目標とする本研究拠点の研究公募もまた、そうした変化に何らかの形で応答していく必要性を感じています。そこで、2022年度も引き続き、研究公募を「劇場実験型」「リサーチ支援型」の双方とも、二つのテーマを通して行うことといたします。

ひとつは、「自由テーマ」であり、もうひとつは「2020年代の劇場」という「課題テーマ」です。審査にあたっては、「自由テーマ」「課題テーマ」の別なく、純粋に優れた研究計画と認められるプロジェクトを採択していくことになります。特に、「課題テーマ」の「劇場実験型」に関しては、「劇場」そのもののあり方自体が根源的に問われている状況のもと、必ずしも「京都芸術劇場」を実際に使用した研究計画の提案でなくてもかまいません。とはいえ、そのことは、「zoom 演劇」や「オンライン配信」などを促進するというだけの意図ではなく、あくまでも根源的に、「2020年代の劇場」で何が可能か、という問いの上に立った（具体的な作品の実験等も含む）研究計画を想定しています。

応募を検討される皆さんには、ご自身の問題意識や、上記のような本研究拠点の問題意識も踏まえつつ、ぜひとも充実した研究計画をご応募いただければ幸いです。

▷ 研究課題

自由テーマ

舞台芸術の創造・受容にむけた、これまでに無い新たな発想による研究計画を募集します。「伝統」と「現代」のクリエイティブな融合を目指す研究や、日本の演劇伝統の再検証を通じ「活きた現代の芸術」としての可能性の再検証を目指す研究、あるいは、芸術大学における劇場という特色を活用した「大学の劇場」の社会的役割モデルの発信など、「創造」と「研究」が領域横断的に結びついた、自由な発想による研究計画をお待ちしています。

課題テーマ

「2020年代の劇場」を主題とした研究プロジェクトを募集します。「舞台芸術」と「劇場」の新たな関係性を見つめ直す劇場実験型の研究や、「劇場」の社会的機能を今日的な社会的課題の中で新たに再検討するリサーチ支援型プロジェクトなど、「創造」と「研究」の横断的な発想を通じた意欲的な研究計画をお待ちしています。

応募方法

共同利用・共同研究拠点事務局 (kyoten@kua.kyoto-art.ac.jp) 宛に、E-mailにて以下の必要書類をご提出ください。

件名 : 2022年度「劇場実験型／リサーチ支援型」・〈自由テーマ／課題テーマ〉応募

※「」内には応募される実験／支援のいずれかを記入してください。

※〈〉内には応募されるテーマのいずれかを記入してください。

本文 : 研究課題名、代表者名、連絡先をご明記ください。

添付 : 2022年度 公募申請書 (PDF形式)

※「劇場実験型」公募研究は採択後、プロジェクト開始前に、劇場の使用の仕方および使用スケジュールについて、事前打合せの機会を設けます。

※選考結果は、「劇場実験型=2021年11月末日」／「リサーチ支援型=2022年1月末日」までに、採否いずれの場合も、応募者にメールにて通知します。

※ご応募のメールを受信後、3日以内に受信確認のお返事を差し上げます。確認の返信が届かない場合には、お手数ですが事務局までお問い合わせください。

【応募期間】

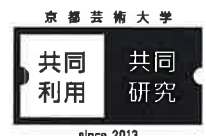
劇場実験型 : 2021年6月1日(月)～8月29日(日) ※23:59まで(必着)

リサーチ支援型 : 2021年8月2日(月)～10月31日(日) ※23:59まで(必着)

応募の際は、以下のサイトに掲載される募集要項を必ずご確認ください

共同利用・共同研究拠点ウェブサイト

<http://www.k-pac.org/kyoten/public/>





① シャンカル・ヴェンカテシュワラン 『犯罪部族法』
撮影：松見拓也



② BONUS 『第3回超連結クリエイション』



③ 地点 『マヤコフスキー研究』／劇場実験
撮影：松見拓也

選考・審査（Ⅰ・Ⅱ共通）

選考基準は独創性、実現性を基準として総合的に評価し、京都芸術大学および学外の教員、有識者から構成される運営委員会において決定されます。運営委員の構成については公募要項またはウェブサイトの「運営組織」をご覧ください。
なお、発表前の選考に関するお問合せはご遠慮ください。

留意事項

- ・応募申請書は本拠点のウェブサイトよりダウンロードしてください。
- ・一度提出した申請書、資料の差替えや返却は原則としてできません。
- ・E-mail のみのご応募とします。郵送や持ち込みでの応募は受付致しません。
- ・必着日時を過ぎて到着した申請書に関しては、いかなる場合でも受理致しません。
- ・研究代表者として申請できるのは1人につき1件までです。
- ・支給される研究費の最終的な金額は、審査会での議を経て、本研究拠点が決定するものとします。なお、申請額通りの支給とならない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- ・劇場その他の大学施設の使用および期間については、当該年度の劇場稼働状況（大学行事・授業等）との調整が必要となるため、採択決定後に当拠点との調整を行います。
- ・採択後の予算執行は、京都芸術大学が定める規定及び本研究拠点の規定に基づいて行っていただきます。研究プロジェクトに直接必要と認められる支出以外の執行はできません。
- ・公開の研究会等を有料で行うことはできません。
- ・事業終了後の研究成果の出版等による公表については、事前に拠点事務局にご連絡ください。
- ・研究遂行上収集した資料（図書、DVD等の視聴覚資料）、機材については、原則として全て本研究拠点に属するものとします。
- ・採択された公募研究プロジェクトの参加者は、共同利用・共同研究拠点の図書、資料等を必要に応じて利用することができます。
- ・研究期間終了後に研究内容に関連、派生した公演・研究発表・執筆等を発表する際は広報物などに「京都芸術大学〈舞台芸術作品の創造・受容のための領域横断的・実践的研究拠点〉」のクレジット表記をお願いします。

研究プロジェクト終了後の報告

採択された研究プロジェクトには

- ・「研究事業報告会」での研究報告（プレゼンテーション）
- ・公開を前提とした研究報告書の執筆・提出（アニュアルレポート）

の2つを行っていただきます。日程や締め切り等については、採択後の調整となります。

お問い合わせ

京都芸術大学 舞台芸術研究センター
共同利用・共同研究拠点事務局

〒606-8271 京都府京都市左京区北白川瓜生山 2-116

TEL：075-791-9144（平日 10:00-17:00）

E-mail：kyoten@kua.kyoto-art.ac.jp

共同利用・共同研究拠点ウェブサイト：k-pac.org/kyoten/

京都芸術劇場ウェブサイト：k-pac.org/

■ 写真① 2018年度 テーマ研究Ⅰ

身体と言葉の創造的行為を巡って
——インド／京都による国際共同研究
研究代表者：山田せつ子

■ 写真② 2015年度 劇場実験型公募研究Ⅰ

「ダンス 2.0」の環境構築を通して今日的課題へ
とダンスをつなぐ試み
研究代表者：木村覚

■ 写真③ 2015年度 劇場実験型公募研究Ⅱ

マヤコフスキー研究～詩人の仕事の解明と新しい
演劇言語の開発
研究代表者：三浦基

京 都 芸 術 大 学

共同
利用

共同
研究

since 2013